

新しい刺激をからだに入れる

OUMIスポーツカイロプラティック 近江 顕一氏 (高校55期)



- 2008年 - 早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科アスレティックトレーナーコース卒
- 2014年 - Life University(米国ジョージア州)卒。
ドクターオブカイロプラクティック(DC)とスポーツ科学修士(MS)を取得。
国家試験に合格後、バージニア州での開業免許を取得し同州でアソシエイトとして働く。
- 2018年 - 立川でOUMIスポーツカイロプラクティックを開業。国際認定スポーツカイロプラクター(ICSC)の資格を取得

立高生のみなさん、初めまして。私は現在立高の近くでカイロプラクティックというからだケアに携わる仕事をしています。カイロプラクティックってなんだ？ということに関しては別の機会にお話するとして、今回は「新しいことに挑戦する」ということに関してお伝えしたいと思います。

私自身のことになりますが、日本の大学在学中から留学願望があり、もっと視野を広げたい、日本という国を外から見てみたいという思いもあり、大学卒業後にアメリカに留学しました。アメリカには合計で約6年間いることになるのですが、今思い返してみても自分にとって新しく貴重な経験をたくさんすることができ、良い思い出しかありません。



アパラチアン・トレイルの途中で

カイロプラクティックを学ぶための学校での授業はとても忙しく、あまりイメージが湧きにくいかもしれませんが、1年間で120単位近く取得し、授業が朝7時から夜7時までということも珍しくありませんでした。そんな中数週間毎に中間試験やレポートが5～6つ、そして期末試験等があり、さらにそんな中インターンとしての作業や時間外活動がありました。ですが、クラスメイトにも恵まれ、休日や休み期間中は経験したことのない新しいことなどいろいろなことに挑戦し、いろいろな場所に行きました。車で15時間かけてアメリカの最南端まで運転したこと、壮大な景色の中の山登り、NBAやNFLなどのスポーツ観戦、アメリカで始めてフルマラソンに挑戦したこと、クラスメイトと320kmのマラソンリレーに挑戦したことなど挙げればきりがありませんが、多くの今まで経験できなかったことを経験し、自分のからだに新しい刺激を入れることができました。



卒業式
(Life University)

少し専門的な話になりますが、人間は新しいことをやったり、学ぼうとしたりするとそれに対して適応しようとするからだのいろいろな部分が変わります。そのことがより自由な発想、今までになかったものを生み、また新しいことに挑戦しようという意欲が湧いてきます。それだけ多くの可能性を秘めているのが私たちです。慣れ親しんだものではない新しいことに挑戦というのは時に難しいこともありますが、新しい刺激が入らないということは自分の中で変化が起こらない状態です。立高という素晴らしい環境で学ぶ皆さんには、新しい言語を学ぶ、新しい場所に行く、新しい趣味を見つける、どんなに小さいことでも良いのでいつもとは違う何かに挑戦してみると良いと思います。

私は錦町の立高から歩いて5分くらいのところで仕事をしています。留学中の話などその他何か聞きたいことがあればいつでもお気軽にお越しいただければと思います。



スポーツイベントでのボランティア活動